

今日の説教のポイント<マタイによる福音書 18 章 21～35 節>

①「7の70倍までも赦しなさい」の意味は？

イエス様が言われたこの数字の背景には、レメクが言った、「カインのための復讐が7倍なら、レメクのためには77倍」があります（創世記 4:24）。レメクの姿は自分の感情のままに怒る古き人間の姿です。イエス様はそれに対して新しい人間が取るべき姿を示されたのです。私たちは無限に赦し続けられるようになれるのでしょうか？

②前の段落のテーマは「教会内で罪を犯した者の対処の仕方」！

先週の箇所（18:15以下）は、罪を犯した人に対して教会ではどう対処すべきかがテーマでした。ですから、「何をされても赦しなさいということ？ おかしいじゃない」といったことを考えても、それは聖書読みの聖書知らずです。そこで次のイエス様のたとえ話に注目です。

③大きな赦しを前にしたとき、人は初めて罪が分かる！

この話を讀んだ人は皆、自分の仲間の負債を赦さなかった人を「ひどい男だな」と思うでしょう。それと同時に、「自分はどうか。人のことは言えないな」、とも思うのではないのでしょうか。それはなぜでしょう？ この男が直前に、もっとはるかに大きな負債を赦されたことを知っているからです！ これがないと、「負債を返せないのだから牢に入れられても仕方ないか」と思うかもしれません。私たちが本当に罪が分かるのは、大きな赦しを私たちに与えて下さる神様を知るときなのです！ だからこそ、その愛を知らされた者は、同じ愛、同じ赦しに取り組んで行くのです（イミタチオ・ディ：神に倣う「だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」5:48）。

④神の赦しと自分の罪、それを知らされた者たちの新しい群れ、教会！

私たちは神の大きな赦しを知って自分の罪を知らされました。しかしそれで罪無しの人間になるわけではありません。なお罪人であり、罪を犯してしまうけれども、神様の赦しを知った新しい人間として、自分が罪を犯したときには赦しを請い、人の罪を知った時には赦すことを思いつつ、その罪を正すことにもあたるのです。主に赦されて生かされていることを中心に置いて赦し合って生きて行くことを目指す人たちの群れ。マタイ福音書 18 章が語る「教会」とはそういうところなのです！